

映画で考える 戦争と平和 / 第3回

『ダンケルク』授業ガイド

生きて帰るという勇気——『生きて帰る』ことも、勇気。」

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	生きて帰るという勇気（勝ち負けではなく「命を守る」ことの価値を考える）
教材映画	『ダンケルク』（原題 Dunkirk／2017年・イギリス、アメリカほか／監督・脚本：クリストファー・ノーラン）
対象	中学生以上。映倫G。流血は控えめだが、爆撃・沈没・溺れる場面など緊張の強い場面が続く
時間	標準100分（50分×2）。上映106分。全編視聴も可能な長さ
中心概念	ダイナモ作戦／撤退と勇気／市民の力（民間の小型船）／立場によって違う「時間」と見え方
ねらい	「逃げる＝負け」という見方を問い直し、命を守る行動や、ふつうの人が危機にできることを考える
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／ドーバー海峡周辺の地図／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 戦闘描写の扱い

日本の映倫はGで流血の描写は控えめですが、**爆撃・沈没・溺れる場面**など緊張の強い場面が続きます。水難事故や災害を経験した生徒がいる可能性にも配慮してください。

- 上映前に場面を確認し、必要に応じて**クリップ視聴**に切りかえる。
- 第二次世界大戦初期の状況（ドイツ軍の西方攻勢、連合軍の撤退）を**事前に補う**。
- セリフが少ない作品のため、**見る視点（陸・海・空）**を先に示しておく。
- 感想や体験の発表は強制しない。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 ダイナモ作戦（予備知識）

何が起きたのか

1940年5月、第二次世界大戦の初期。ドイツ軍の攻撃で、イギリス・フランスなどの連合軍はフランス北部の港町ダンケルクに追いつめられました。5月下旬から6月4日にかけて、兵士を海の向こうのイギリスへ逃がす救出作戦（ダイナモ作戦）が行われ、約33万8000人が救い出されました（多くのフランス兵も含まれます）。

市民の船

軍艦だけでなく、漁船やヨットなど民間の小さな船が数多く駆けつけ、浅い海岸から兵士を運びました。イギリスでは今も、困難のときに市民が力を合わせることを「ダンケルク・スピリット」と呼ぶことがあります。

💡 3つの「時間」でできた映画

映画は陸（海岸）＝1週間、海＝1日、空＝1時間という長さのちがう3つの時間を交互に見せ、やがて一つに重ねます。

「同じ出来事でも、立場によって見えるもの・感じる時間はちがう」という視点は、歴史の学び方そのものにつながります。

「生きて帰る」を考える4つの視点（板書用）

① 撤退も選択

しりぞいて命を守ることは、負けではなく判断。

② 迎えに行く勇氣

兵士でない市民が、自分から危険な海へ向かった。

③ 恐怖は弱さではない

怖いと感じるのは、人として当たり前のこと。

④ 立場で見え方が違う

陸・海・空、それぞれの時間と見え方。

🎯 この授業の到達目標

ダイナモ作戦の概要を説明でき、「撤退」や「生きて帰る」ことの意味を、映画の場面を根拠に自分の言葉で考えられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「戦争の物語＝敵を倒して勝つ話？」と問い、イメージを引き出す。
10-20分	背景	地図でダンケルクとドーバー海峡を確認。ダイナモ作戦の概要を説明。
20-50分	映画を観る①	陸・海・空の3つの物語の導入部分（クリップ）。どの時間の話を意識させる。
50-75分	映画を観る②	民間の船が到着する場面・帰還した兵士が迎えられる場面など。
75-90分	ワーク記入	「迎えに行く勇氣」「生きて帰る価値」をワークシートで考える。
90-100分	共有・まとめ	板書「『生きて帰る』ことも、勇氣。」で締める。

🌱 まとめ

戦争の歴史は、勝ち負けで語られがちです。でも『ダンケルク』が描くのは、追いつめられた人々が生きて帰ろうとする姿と、それを迎えに行った市民の勇氣でした。命を守ることの価値は、戦争以外の場面——災害や日常の危機——にも通じます。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Dunkirk / ダンケルク
製作年・国	2017年・イギリス、アメリカほか。上映106分。映倫：G
監督・脚本	クリストファー・ノーラン（『ダークナイト』『インセプション』、のちに『オッペンハイマー』）
受賞	アカデミー賞 編集賞・音響編集賞・録音賞の3部門
作り	セリフを少なくし、映像と音で緊張感を伝える。大画面のIMAXカメラを多く使用

主なキャストと役柄

- フィン・ホワイトヘッド（トミー役）：海岸から生きて帰ろうとする若い兵士。背景はほとんど語られない「ふつうの兵士」。
- マーク・ライランス（ドーソン役）：自分の船で兵士を迎えに行く民間人。
- トム・ハーディ（ファリア役）：燃料の残りを気にしながら空で仲間を守るパイロット。
- ケネス・ブラナー（ボルトン中佐役）：桟橋で撤退を指揮する海軍の中佐。

本物の小型船

撮影には実際のダンケルクの海岸が使われ、救出作戦に参加した「本物の小型船」の一部も撮影に使われたといわれます。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、コトバンク等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 「逃げる」「撤退する」ことは、負けなのだろうか？

→ 命を守るための判断であること、帰還した兵士を人々が温かく迎えた場面に注目させる。

Q. あなたがドーソンさんだったら、船を出す？

→ 正解を求めず、危険と責任、迎えに行く理由をそれぞれの言葉で考えさせる。

Q. 陸・海・空、それぞれの立場から見たダンケルクは、どうだった？

→ 同じ出来事でも立場で見え方・時間が変わることを、歴史の見方につなげる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 「撤退」や「生きて帰る」ことの意味を、映画の場面を根拠に説明できているか。
- 市民（ふつうの人）の行動の意味を、自分の生活や社会に結びつけて考えられているか。
- 立場によって出来事の見え方が変わること気づけているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する（家族の戦争体験などに触れる生徒への配慮）。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	1917 命をかけた伝令	一人ひとりの命の重さ	中学生～
2	西部戦線異状なし	戦争を美化しない目	高校生～
3	ダンケルク	生きて帰るという勇氣	中学生～
4	シンドラーのリスト	一人の選択が命を救う	高校生～
5	硫黄島からの手紙	敵にも家族がいる	中学生～
6	ガンジー	暴力を使わずに社会を変える	中学生～
7	ブリッジ・オブ・スパイ	対話と交渉で争いを止める	中学生～
8	ホテル・ルワンダ	見捨てない勇氣	中学生～

8 参考資料（主な出典）

ダンケルク 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「ダンケルク (2017年の映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/ダンケルク_\(2017年の映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/ダンケルク_(2017年の映画))

コトバンク「ダンケルク撤退作戦」 <https://kotobank.jp/>

作品：映画『ダンケルク』（2017年、監督クリストファー・ノーラン）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。